

同志社大学アメリカ研究所 春季公開講演会

International Institute of American Studies, Public Lecture

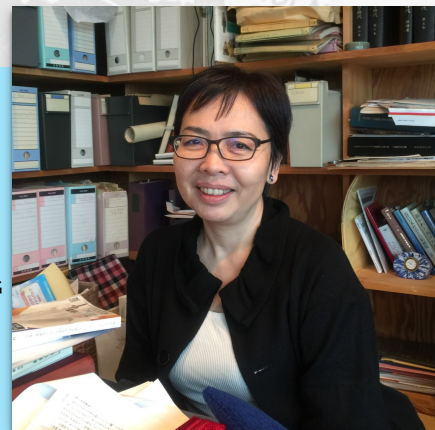
## 女性参政権100周年に寄せて

### 参政権獲得後の女性と禁酒法をめぐる選挙政治

#### 小檜山ルイ (コヒヤマ・ルイ) 氏

東京女子大学現代教養学部国際社会学科・教授

専門はアメリカ女性史・ジェンダー史、アメリカ・キリスト教史、日米関係史。著書に『アメリカ女性宣教師——来日の背景とその影響』（東京大学出版会、1992年）、『帝国の福音——ルーシィ・ピーボディとアメリカの海外伝道』（東京大学出版会、2019年）、共編著書に『アメリカ・ジェンダー史研究入門』（青木書店、2010年）、共著に『歴史のなかの政教分離』（彩流社、2007年）、『帝国と学校』（昭和堂、2010年）、『モダンガールと植民地的近代』（岩波書店、2010年）、Competing Kingdoms: Women, Mission, Nation, and the American Protestant Empire, 1812-1960 (Duke University Press, 2010), 『近代日本のキリスト教と女子教育』（教文館、2016)



本報告では、拙著『帝国の福音』第八章で採り上げた禁酒法をめぐる女性たちの攻防を検証し、選挙権実現直後の1920-30年代に、参政権は女性にとってどのような意味を持ったかを考えてみたい。憲法修正第18条の成立（1919年）から廃止（1933年）に至る政治過程は、日本ではほとんど顧みられないことがないが、この間の特に大統領選において、禁酒法は重要な争点の一つであり、とりわけ女性たちにとっては、有権者として、その明確な立場を選挙政治に反映させる最初の機会を提供したものであった。この間の女性たちの政治活動を追い、選挙権獲得以前の女性の政治文化がどのように機能不全に陥ったか、また、女性たちはどのように新しい局面を経験したかを紹介したい。

2019年6月24日(月)

16:40 - 18:10

同志社大学烏丸キャンパス

Doshisha University, Karasuma Campus

志高館SK118

@Shikokan-Building SK118

来聴歓迎  
予約不要

No Reservation required

International Institute of American Studies

同志社大学アメリカ研究所

ji-amekn@mail.doshisha.ac.jp

tel.075-251-4900